「日々の理科」（第 1990 号） 2019,12,20

「てこの実験セット（１）」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーションセンター研究員

田中　千尋　Chihiro Tanaka

小学生の時、月に一回「特別な日」があった。「学研の科学」の配布日だ。私の小学校では、希望者が「学研の科学」「学研の学習」を注文し、学校が一括で購入、月に一回教室で配布していた。私は高学年の時に「学研係」という係をしていて、それをクラスの子どもたちに配布する仕事をしていた。クラスのほとんど全員が「科学」か「学習」を購読していたと思う。

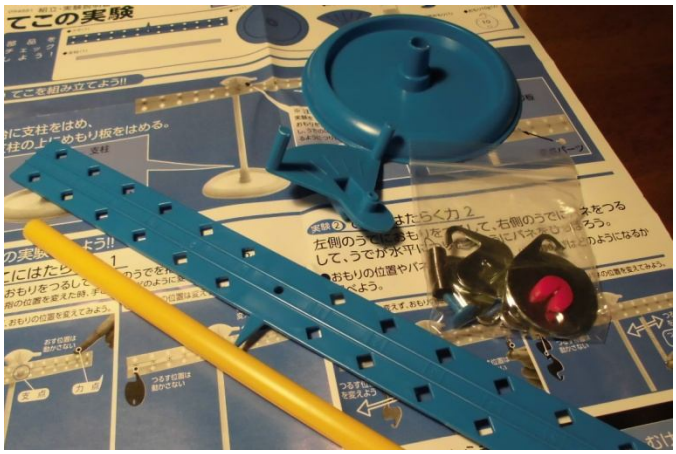
私は両方ともとっていたが「科学」のほうが楽しみだった。理由はただ一つその豪華な「ふろく」である。たとえば、写真は 1976 年（昭和 51 年）の「学研６年の科学」のふろくである。ちょうど私が６年生の時だ。実際にこれで、友達と写真を撮って現像したのもよく覚えている。印画紙や現像に必要な薬品類もすべてセットについていた。箱には「家で開けましょう」と書いてあったが、通学中の電車の中で開封してしまった記憶もある。それだけワクワクしていたのだろう。

私は毎月「学研の科学」が届く日を心待ちにしていた。何かの都合で配達が遅れると、担任の先生に「まだまだ～？」とせっついた記憶もある。今思えば、この「学研の科学」は、私を順調に「理科少年」に育てた原動力だったような気がする。

「学研の科学と学習」は、2010 年に休刊になり、残念ながら現在は刊行されていない。月刊誌で、しかも１年～６年までのふろくの内容を考え、採算が合うように生産するのは非常に大変だったのだろう。

しかし、その「学研の科学のふろく」を彷彿とさせるものが今でもある。学納用の児童向け理科教材の数々だ。本校では、そのような児童一人ひとりが所有するような教材はあまり使ってこなかった。例外的に、３年の「磁石」「豆電球」「風やゴムで動くおもちゃ」それに５年の「電磁石」などはセットもののほうが安価な為に一括購入・配布することもあった。

今年度の６年生では、「てこの実験セット」を人数分購入した。これには、いささかの理由がある。本校は 12 月上旬に入学検定があり、約一週間の家庭学習期間がある。その宿題の課題用に配布することにしたのだ。６年生の子どもたちは、きれいな箱に入った教材を一人一箱もらって、大喜びしていた。ああ、私が小学生の時に「学研の科学」をもらった時と同じだなと、ちょっとほほえましく思った。



セットには竿、支柱、台座、おもり（5g×4、10g×2)、支点板、微調整子、実験用ばね、解説書が入っていて、これだけで、教科書の実験がすべてできる。